

製品名: APLP-2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab07015

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	90-120kDa

抗原情報

遺伝子名	APLP2
別名	APLP2; APPL2; Amyloid-like protein 2; APLP-2; APPH; Amyloid protein homolog; CDEI box-binding protein; CDEBP
遺伝子 ID	334.0
SwissProt ID	Q06481
免疫原	抗血清はヒト APLP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

背景

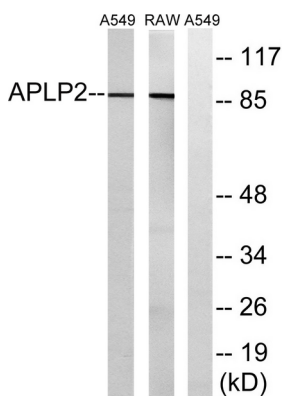
この遺伝子は、アミロイド前駆体様タンパク質 2 (APLP2) をコードします。APLP2 は、APP、APLP1、APLP2 を含む APP (アミロ

イド前駆体タンパク質) ファミリーのメンバーです。このタンパク質は普遍的に発現しており、N末端にヘパリン、銅、亜鉛結合ドメイン、中間領域に BPTI/Kunitz 阻害因子ドメインと E2 ドメイン、C 末端に膜貫通ドメインと細胞内ドメインを有します。このタンパク質は、主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) クラス I 分子と相互作用します。このタンパク質と APP の相乗効果は、神経筋伝達、空間学習、シナプス可塑性の媒介に必要です。このタンパク質は、アルツハイマー病の病因に関与していることが示唆されています。異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。 [RefSeq 提供、2011 年 8 月], 代替製品: 追加のアイソフォームが存在する可能性がある, 機能: 止血の調節に関与する可能性がある。可溶性型は凝固因子に対する阻害特性を有する可能性がある。細胞内 G タンパク質シグナル伝達経路と相互作用する可能性がある。DNA の 5'-GTCACATG-3' (CDEI ボックス) に結合する可能性がある。トリプシン、キモトリプシン、プラスミン、第 XIA 因子、血漿および腺性カリクレインを阻害する。 , PTM: BPTI/Kunitz 阻害ドメインは O-グリコシル化されている。 , 類似性: APP ファミリーに属する。 , 類似性: 1 つの BPTI/Kunitz 阻害ドメインを含む。 , サブユニット: CPEB1 と相互作用する。 , 組織特異性: 胎盤、脳、心臓、肺、肝臓、腎臓、および内皮組織。 ,

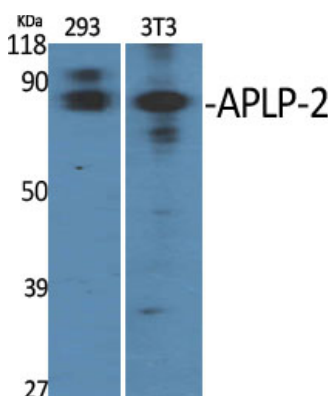
研究分野

神経科学

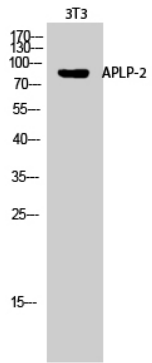
画像データ



APLP2 抗体を用いた RAW264.7 細胞および A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



1: 2000 に希釈した APLP-2 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。



1: 2000 に希釈した APLP-2 ポリクローナル抗体を使用した 3T3 細胞のウエスタンブロット解析。